

小城市立岩松小学校 学校だより 第43号	 岩松小だより	令和8年2月27日発行 発行者 校長 真子靖弘
-------------------------	--	----------------------------

令和8年度より、コミュニティ・スクールへ

文部科学省が進める「地域とともにある学校づくり」。小城市内では芦刈観瀾校が先行して取り組んできましたが、**令和8年度からは岩松小学校を含む市内すべての小中学校が「コミュニティ・スクール」へと移行します。**

これまで本校では、5名の学校評議員の皆様から貴重なご助言をいただき「**学校評議員会**」を軸に運営してきました。今後は、法律に基づき教育委員会が設置する「**学校運営協議会(コミュニティ・スクール)**」がその役割を担い、学校運営により深く、主体的に参画していただくこととなります。

これまでの学校評議員会と、新しい学校運営協議会の**違い**は、学校運営に対する「**参画権限**」と「**法的拘束力**」にあります。

区分	これまで (学校評議員会)	これから (学校運営協議会)
立場	校長の求めに応じて意見を述べる「 諮問機関 」	校長と対等な立場で方針を承認・協議する「 合議制の機関 」
主な役割	学校運営への助言・協力 	1 学校運営の基本方針を承認する 2 学校運営について意見を述べる 3 教職員の任用について意見を述べる

単に「意見を聞く場」から、**地域と学校が目標やビジョンを共有し、「これからの岩松小をどうしていくか」を対等に話し合い、決定していく場へ**と進化します。学校・保護者・地域がバラバラではなく、ひとつのチームとして一体となること。それがコミュニティ・スクールの目指す姿です。

地域の宝である子どもたちを中心に据え、皆様の知恵と力を結集しながら、より豊かな教育環境づくりに励んでまいります。新しい体制への移行に向け、今後ともご理解とご協力をお願い申し上げます。

佐賀新聞に5年生の意見文が掲載されました！

本校の教育活動において大切にしているのは、「**教室での学びを、いかに実社会や自分の生き方につなげるか**」という点です。このたび、5年生の社会科「情報」の単元での学びを深めた2名の子どもが、自分の考えをまとめ、**佐賀新聞の「読者の広場」**に投書しました。見事**その意見文が掲載されました**ので、ご紹介（一部抜粋）いたします。

「新聞から学び自分で考える大人へ」 江里口莉子

…日頃、新聞はあまり読まなかったけれど、社会科の授業をきっかけに興味を持ち、少し読むようになった。…たくさん情報の中から自分の考えや答えを見つけて、物事を自分で判断できる大人になりたい。(2/19付 掲載)

「社会と私をつなぐ新聞の役割」 久富恒仁朗

…新聞はとても大切な役目をしていると思いました。というのは、新聞社の人は、国会の解散や原子力発電など、難しい出来事をできるだけ速く、わかりやすく伝えようと感じたからです。…(2/20付 掲載)

5年生の社会科では、コンビニエンスストアの流通システムや新聞社の情報発信を例に、情報がどのように収集・活用され、私たちの生活を支えているかを学びます。同時に、メディアの役割や情報の正しい扱い方（リテラシー）、情報セキュリティといった、現代社会を生きる上で欠かせない基礎知識も習得します。



しかし、**知識は覚えるだけでは十分ではありません**。それを**自分なりに解釈し、発信することで初めて「生きて働く力」となります**。今回、新聞という公共のメディアを通じて自らの考えを世に問うた二人の挑戦は、まさに**学びの集大成**と言えるものです。二人が社会の仕組みを自分事として捉え、論理的に意見を組み立てたプロセスは、他の児童にとっても大きな刺激となりました。

詳細な内容は、ぜひ新聞紙面、または校内に掲示している切り抜きをご覧ください。

